



下建縦貫 第 9 号
平成 19 年 5 月 2 日

国土交通省道路局長 宮田年耕 様

下田市長 石井 直樹



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

中期的な計画の作成にあたっての意見を別添のとおり提出します。よろしく願い致します。

【担当】下田市建設課
電話 0558-22-2219
FAX0558-27-1007

中期的な計画の作成にあたっての意見

下田市は恵まれた豊かな自然や温泉、開国の歴史、文化を十二分に活かして国内だけでなく、国際競争力のある観光立市として発展するため、独自の魅力を創出し、発信するなど努力を重ねております。伊豆半島は例年京都を上回る約4,400万人が来訪する日本屈指の観光地であり、その約6割が自家用車を利用しております。伊豆半島の中央を南北に走り天城山を越え下田市に通ずる国道414号は狭隘箇所が多く線形も不良であり、また東伊豆海岸から下田市に通ずる国道135号も急峻な海岸線の地形から大型車が交互通行できないトンネルも多い状況であります。このようなことから、観光シーズンや夏場に関しては平日であっても慢性的な渋滞が生じ、最近では渋滞を懸念し伊豆半島の南に位置する下田市への観光客は著しい減少傾向にあり、観光立市としては大きな痛手となっております。

市民生活に目を向ければ、医療面において、当市から第三次救急医療機関までには約2時間も到着時間がかかり、緊急輸送が必要な血液運搬についても、ほぼ1日おきに輸送している状況にあります。この救急医療問題を解消できる唯一の方策として、伊豆縦貫道の早期開通を望む声は多く、市民・病院関係者から意見や期待が寄せられているところであります。

また災害面に関しては、脆弱な地形と豪雨による主要幹線道路の土砂崩落、道路決壊による通行止めや、雨量規制による通行止めから陸の孤島となったこともたびたびあり、観光や物流、地域住民の暮らしにも大きな影響を受けてきました。東海地震も予想され、南伊豆地域の影響も懸念される中、日常生活、災害発生時や緊急輸送時に、観光客だけでなく、住民が安心して過ごせる下田市とするためには、災害に強く安心して走行できる道路を建設することは重要な課題であり、実現しなくてはなりません。

このようなことから、自然、歴史、文化が調和するまちづくりを目指すためには、異常気象、緊急医療の際にも動じない“安心”のあるまちが根幹であり、伊豆縦貫自動車道並びにアクセス道路の早期完成が必要不可欠なものであります。

1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

- ・ 遅れている地方の高規格幹線道路を計画的、重点的に整備すべきと考えます。
- ・ 伊豆縦貫自動車道は、渋滞緩和と共に、医療面、災害面での効果や期待が大きく、早期完成を目指すべきと考えます。

2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

- ・ 交通ボトルネック箇所の早期解消を図るため、既存道路を活用した効率的な道路ネットワークづくりを目指すべきと考えます。

3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関すること

- ・ 地方の道路整備につきましては未だ道半ばであり、まだまだ道路特定財源制度の果たすべき役割は大きく、制度本来の目的に従い、全額道路整備に使うべきと考えます。
- ・ 今まで高速道路サービスがなかった南伊豆地域への高速交通ネットワークの早期完成を目指すべきと考えます。

平成19年5月2日

下田市長 石井直樹

